

【患者・医療者関係の構築】

法と医療の連携によるトラブル予防と患者信頼関係強化の重要ポイント

弁護士法人小畑法律事務所 代表弁護士（東京弁護士会所属）

歯科医師 [博士（歯学）]

北海道大学客員教授

小畑 真

近年、歯科医療トラブルは増加するとともに、その内容も大きく変化してきています。大きな要因の一つは、スマートフォンの浸透にあります。我が国のスマートフォンの世帯保有率は2010年の9.7%から、2023年には90.6%と、飛躍的に増加してきました。そのため、我々はスマホを介して、インターネットなどのメディア上に溢れる様々な情報を容易に取得でき、誰でもいつでも気軽に発信することができるようになるなど利便性が高く、多くの方の生活の一部になっています。一方で、スマホは、考える力を失わせ、心の余裕をなくし、偽情報や誤情報を鵜呑みにして他人を攻撃するというような悪循環を生じさせるなどの脳に対する影響も大きいという見方もあります。実際、スマホの影響によって、これまでまったくトラブルにならなかったようなことでも大きなトラブルに発展していると思われるケースも少なくありません。

このような状況下では、正しい情報を、患者さんに正確に提供し、患者さん本人の納得が得られた上で治療を進めていくことが今まで以上に求められます。

この点、一般的な歯科診療は、医療提供者と患者さんとの関係という1対1のシンプルな構造となっていますが、障害者歯科領域では、患者さん側は、受領者本人（障害者）と契約主体（例えば、親）が存在し、それぞれの役割も異なりますので、コミュニケーションギャップや医療契約トラブルが発生しやすい構造と言えます。

このように、時代の変化とともに多様なトラブルが増えてきている状況では、無用なトラブルを防ぎ、安心して良質な医療を提供し続ける上でも、正しい法律知識と正しい運用を行うことはとても重要になってきています。

そこで本講演では、障害者歯科領域の法的トラブルを回避し、患者さん側と信頼関係を強化するためのポイントについて解説いたします。